



士別ロータリークラブ会報

創立 1960・3・24

RI 第 2500 地区

Vol.027

No.2459

2013-2014年度国際ロータリーのテーマ



2013-14年度RI会長 ロン D. バートン

2013-2014年度士別ロータリーのテーマ
「出来ることを 出来るときに 出来ることから」

士別市／世界のめん羊館



例会場／士別グランドホテル

例会日／毎週月曜日 12：10～13：10

事務所／士別グランドホテル TEL 0165-23-1234

会長／千葉 繁 夫

副会長／阿 達 勇

幹事／奈良 康 弘

第 2540 回例会 2014年2月24日 (月)

本日のプログラム：移動夜間例会

● 前回 (2月17日、月曜日) の記録：普通例会・会員卓話

司 会／近井孝義 会場監督

齊 唱／奉仕の理想

本日の出席／会員 48 名中 出席者 35 名 出席率 72.92%

本日の欠席／今井 裕、黒田康敬、近藤峯世、鈴木 勉、細川博司、深尾幸夫、藤吉敏博、松塚信雄、宮崎隆雄、山口哲雄、相山佳則、田中道也、國森和磨

ビジター・ゲスト／

メイクアップ／千葉繁夫、奈良康弘、織戸俊二、坂口芳一、佐藤元信、宮崎隆雄、山口哲雄、(10/11・12・13 地区大会)

ニコニコBOX／

累計 226,000 円

● 例会予定

2月例会日(世界理解月間)

- 2月 3日 (月) 普通例会・理事会
- 2月10日 (月) 普通例会
- 2月17日 (月) 普通例会
- 2月24日 (月) 夜間例会

3月例会日(識字率向上月間)

- 3月 3日 (月) 普通例会・理事会
- 3月10日 (月) 普通例会
- 3月17日 (月) 普通例会
- 3月24日 (月) 夜間例会 士別RC創立記念日
- 3月31日 (月) 特別休会

■会務報告 千葉繁夫 会長

●15日、士別市・士別商工会議所主催の第54回永年勤続優良従業員表彰式に出席してきました。今年度は、勤続20年から45年までの特別表彰は41人、勤続10年の一般表彰は39人の合計80人が市長と会頭から表彰を受け取りました。

●ソチ五輪、初出場で19歳の羽生結弦選手が日本勢初の金メダルに輝きました。フィギュアスケートでの日本男子は初めてのことで、男女を通じては同じ仙台出身で8年前の荒川静香さんに続く2人目の快挙です。震災を乗り越えての金メダルで立派な青年です。さらに、ジャンプ界のレジェンド41歳で下川出身の葛西選手が個人としては、7大会目にして初めての銀メダルを獲得しました。諦めない精神と体力、努力で勝ち取った栄冠です。そして、「また目標ができたので金メダルに向かって頑張りたい」とのコメント。時期大会も頑張ってください。

●急速に発達した低気圧の影響で、関東・東北を中心に14日から15日にかけて湿った大雪となり、山梨県をはじめ1都7県で陸の孤島となるなど、各地で積雪の観測史上最多を更新しています。事故も相次ぎ、交通も大きく乱れ運休・欠航・通行止めで未だに影響が続いています。幸いに士別地方は影響がありませんが、太平洋側を中心に大荒れとなっており、被害がでています。また、低気圧が発生した模様で北上が懸念されます。2週続けての暴れ低気圧、静かに通過してほしいものです。

●また、道内全域にインフルエンザの流行がピークを迎えているようですが、しっかりと予防し流行に乗らないように注意致しましょう。

■幹事報告 奈良康弘 幹事

①財団法人ロータリー米山記念奨学会よりハイライト米山167号が届いております。回覧いたします、御一読下さい。

②既にFAXにてお知らせいたしておりますが、次週24日夜間例会を「μ」にて開催致します。出発は5時40分当ホテルよりバスにて出発致します。バス利用の方は時間厳守にてお間違えない様お集まり下さい。又同日例会終了後相山新入会員の歓迎会を「山本」にて開

催致します。出欠確認の期日20日となっておりますので、夜間例会出欠と併せまして私あて連絡いただけますよう宜しくお願い致します。

③先週2013年手続要覧日本語版購入の案内を致しました。購入希望の取り纏め本日にて締め切らせて頂きます。購入希望の方につきましては、例会終了までに、私あて連絡をお願い致します。

④美深ロータリークラブ会長宮原宏明様名にて、美深RC創立50周年記念式典及び祝賀会開催の案内が来ております。開催日4月27日(日)13:00より開催となっております。出欠の案内を後日FAXにてさせていただきますので宜しくお願い致します。

■会員卓話

◆プログラム委員会 北村浩史 委員長

本日は、2月が世界理解月間ということもありまして、国際奉仕委員会の谷委員長の会員卓話を行います。谷委員長よろしくお願い致します。

●国際奉仕委員会 谷 温恵 委員長

今月は『世界理解月間』にあたりまして、私のような、経験も浅く小さき者が、先輩方の前でお話させていただくこととなり、大変恐縮ではありますが、役割を果たすべく頑張りますので、どうぞ、よろしくお願い致します。



この委員会について8ヶ月がたちました。園長といえども、日中はほぼ、若い教諭達と同じくして、現場で子どもたちとの遊びや集団生活の指導に時間を費やしているため、なかなか『世界』に視野を広げていないことを痛感していますけれども、今日は、ロータリーの友2月号より知り得たことや考えさせられたことをはじめ、職業柄、世界から見た日本の子育て事情等をお話したく存じます。

はじめにお話した通り、2月はロータリーの暦の上で「世界理解月間」として指定されています。この月間中、ロータリークラブは世界平和に不可欠なものとして、理解と善意を強調するプログラムを行なうよう要請されています。

また、1905年2月23日は第1回ロータリー例会が開催された創立記念日にあたり、現在は「世界理解と平和の日」と定め、この日の意義をとくに強調し、国際理解と友情と平和にむかって献身するよう要請されています。

更に今回初めて知ったのは、2月23日にはじまる1週間を「世界理解と平和習慣」と呼び、ロータリーの奉仕活動を強調することが決議されているそうです。

さて、1905年と言いますと、今から109年前になりますが、シカゴに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスは、街が著しい社会経済の発展の陰で、商業道德の欠如が目につくようになったこの風潮に堪えかね、友人3人と語り、互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたいとの趣旨でクラブを発足しました。

ちなみに「ロータリー」とは集会を各自の事務所持ち回りで順番に開くことから名付けられ、その後、国境を越え、志を同じくするクラブが今では200以上の国と地域に広がり、2013年6月30日の発表ではクラブ数34,558、会員総数1,220,115人に達しているとのこと。また、世界中のクラブの連合体を「国際ロータリー」と称します。

そんな中、日本初のロータリークラブは1920年（大正9年）10月20日に創立された東京ロータリークラブで、翌年、1921年4月1日に、世界で855番目のクラブとして国際ロータリーに加盟承認されました。しかし、第2次世界大戦の波に洗われて、1940年より9年もの間、脱退しまして、再び復帰加盟、その後の日本におけるロータリーの拡大発展は目覚しく、ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける日本の地位は不動となり、2013年11月末現在、日本全体でのクラブ数は2,281、会員数88,744人となっています。

歴史的に見ても、ロータリーとは職業倫理を

重んじる実業人、専門職業人の集まりであり、幅広い奉仕活動を求められ、現在は多方面にわたって多大の貢献をしているということでもあります。

今月号のロータリーの友には、あらためて、ロータリーの誕生とその成長が記されると共に、「広がるつながる国際親善の輪」という大きなタイトルのもとに、青少年交換学生との交流をはじめ、教育支援としての奨学金の提供、井戸掘り、児童養護施設支援等、日本の各クラブが行なってきた活動報告についての記事が掲載されていますし、ポリオ撲滅について等、特に入会間もない会員にとってわかりやすいものとなっていますので是非、じっくりお読み下さい。

そして、2012-13年度国際ロータリー会長であった田中作次氏が次のように語っています。「奉仕を通じて、私たちは、互いの違いに対して寛容になり、周囲の人に対して感謝の気持ちを抱くようになるでしょう。そして、もっと相手を理解し、あらゆる人の中に善を見出すことができるでしょう。こうした理解から生まれる他者への尊重の気持ちが平和な暮らしをもたらすのだと思います。

平和は、異文化間の友情と言う、小さくとも素晴らしいことから始まります。平和は寛容の姿勢というシンプルなことから始まります。平和は、人は皆自分だけでは生きられないということ認識し、世界をよりよい所にしようと思意することから始まるのではないのでしょうか？」と問いかけています。

皆さんはどんなことを思われましたでしょうか？私事ではありますが、以前に外国人の子どもが入園したときのことを思い出しました。日本語をまったく話せない3歳のお子さんをお預かりし、会話は通じても読み書きのできない親との3年間は文字通り、異なる文化への理解を育む毎日でした。互いの当たり前がそうではなかったという違いを感じながらも、分かり合いたいという願いのもとに、園生活に親しむ中、3年間で子どもは日本語がペラペラになり、親子共にたくさんの思い出を作って、「ありがとう。」と卒園していたときには、私も大層心を動かされたものです。

「世界理解月間」とは、すべてのクラブが一

時手を休めて、ロータリーが世界の人々の間の善意、平和および理解をずっと求め続けていく奉仕の道のプランを立て促進する好い機会とされていますので、是非、共に考えていただければ幸いです。

20代の頃、アメリカと韓国の教育の現場を訪れたことがあります。アメリカはボストン、ニューヨーク、ロサンゼルス、サンフランシスコへと行き、強行スケジュールの中、視察と交流研修の中で、貧富の差や親の学歴、時には肌の色で、大きく環境が違ったことに驚きました。また、随分と幼児期から世界の文化に触れた教育が行われていたことも知り、視野の広さがうかがえ、日本の伝承文化である折り紙も鶴などを折っている様子もありました。さて、今、日本の子どもたち、どれくらい、鶴が折れるのでしょうか？

韓国では、敷地の狭いビルの中で、地下では体育、1階では絵画、2階では英会話・・・といったように各階に分かれての英才教育が行われていたことが印象的でした。日本の幼児教育は遊びと生活が基本であり、その中から学ぶよう指導要領が成り立っています。その上、士別の子どもたちは自然に囲まれ、のどかに子ども時代を過ごせていて恵まれていることを感じましたし、確かに平和の中にいることを実感したのを覚えています。しかし、あれから随分時代は変わりました。

ユニセフが発行している「世界子供白書」によると、日本は、5歳未満児の死亡率がもっとも低い国となっています。高度な医療技術、豊富な食糧や医薬品、制度の行き届いた母子保健、予防接種、検診のシステム等、これらを見ると日本は子どもを産むのに安心な国だといえるかもしれません。それに加え、幼稚園、公的機関や保育所、認定こども園での子育て支援の充実、また、社会環境も平和で安全、経済的安定、教育制度の確立と就労率の高さなどの条件を見れば、世界有数の子育て安心国であるといえます。しかし、豊かな物品が揃う生活環境があってもアトピーやアレルギーで悩んでいる子どもが多かったり、充実した学校施設や教育内容を持ちながらも依然として、いじめ、不登校、自殺の数は多く、親からの虐待等も増え続ける現在の状況においては、子どもを産み育てるのに、

安全、安心な国という実感がわいてきてはいません。事実、ここ数年、世の中の子育て支援はどちらかというと、不安や孤独感を訴える母親支援に偏っているからです。

私は常に子どもの幸せが親の幸せになることを願い、子どもと共に親や職員も成長し、どんな時も子どもを中心に、真ん中に幼児教育を行うべく目的に向かっていきますので、本当の意味での子育て支援を期待したいと思っています。

おもしろいアンケート調査があります。現園児の親世代が子どもに望むことは、他人にやさしくあることや思いやりを望む傾向があります。多くの親が願書にこう書いてきます。しかし、以前、子育てを終えた、園児のおじいちゃんおばあちゃん世代に同じことを尋ねたときに、一番多かった答えは、早寝早起き、好き嫌いをしないで何でもよく食べるということでした。さすがに経験者はわかっていると思いました。この、基本的な生活習慣がしっかりと獲得されれば、前段の不安は少なからず軽減されるはずでありますし、自ずと優しい心と思いやりが生まれることは言うまでもありません。安心や幸せを得るには案外、一番日常にあることを忘れてはならないのだと感じる今日この頃です。

少し、仕事の話が多くなり申し訳ありません。

最後になりますが、今日の卓話の準備をしていると、ある歌のメロディーが浮かびました。ディズニーでおなじみ、イッツアスモールワールドで知られる『小さな世界』です。歌詞の中にあります、「世界中どこだって、笑いあり涙ありみんなそれぞれ助け合う小さな世界♪」というフレーズを時には思い出し、広い世界も思い合えるようなロータリークラブであることを願い、これで終わりにさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。